

メダイチドリ

Charadrius mongolus Pallas
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種は砂浜や干潟等を好むため、1980年代の福井新港の造成期には定期的に飛来し1997年以前も時々記録されてきたが、2002年以降は4件しか記録がない。一方で、本種をリストアップしているのは6都府県しかなく、過去の記録地での動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長19.5cmで、雄の夏羽では、喉が白く、顔から胸にかけて橙色で、頭頂・後頭・上面は褐色である。冬羽では橙色が消え、胸に褐色の帯が出る。干潟や砂浜でシロチドリと混群を作り、小動物を食べる。

分布

旅鳥として渡来し、全国の干潟や砂浜に飛来する。県内ではかつて三里浜や福井新港に定期的に飛来していたが、2002年以降は坂井平野や三里浜に時折飛来する程度である。

生息を脅かす要因

本種の定期的飛来地であった福井新港では、シギ・チドリ類の多くが、造成途中の池の岸辺を採餌と休息に利用した。新港の造成は三里浜の面積を縮小させ、彼らの中継地は悪化したままである。シギ・チドリ類は減少しており、中継地造成等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○							○		○	○			○

ダイシャクシギ

Numenius arquata (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

数少ない旅鳥として1974年以前には3件の記録があったが、その後は、2010年に1件の記録があるに過ぎない。本県は干潟や砂浜が少ないため、飛来地は限られているが、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長60cm、長く下に曲がった嘴を持つ大形のシギ類である。頭～背は淡褐色で黒い軸斑がある。大きさも体形もよく似たホウロクシギとは、下背・腰・上尾筒・腹・下尾筒が白いことで区別できる。嘴を砂泥地に深く差し、ゴカイ、カニ類、二枚貝を食べる。

分布

旅鳥または冬鳥として、主に全国の干潟に渡来するが、海岸近くの水田や干拓地の水溜りにも飛来する。このような環境が極めて少ない本県では極めて稀に記録される程度である。

生息を脅かす要因

砂浜の衰退や改変により生息環境が減少し、渡来地が狭められている。2010年に飛来した久々子湖は、宇波西川河口部の小さな干潟と湖岸沿いの湿田が、本種のようなシギ・チドリ類の休息及び採餌場所となっており、県内のほかにはない貴重な生息環境である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○													○			○

アオアシシギ

Tringa nebularia (Gunnerus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では、旅鳥として春・秋季に普通に飛来するが、近年は秋季の記録に減少傾向がみられるため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長35cmで、嘴は上に反り上がり、足は緑青色で長い。背は灰色で腰と上尾筒は白い。水田や湿地等の浅い水辺で、水生昆虫、甲殻類、ミミズ、カエル類、小魚等を食べる。

分布

旅鳥として、全国の河川・河口・干潟・水田等に飛来する。県内では、春季には砂浜や田植え期の水田に多い時には十数羽の群れで、秋季には湛水休耕田に数羽の群れで飛来する。

生息を脅かす要因

乾田化による湿田や湛水休耕田の減少、温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が減少し、生息環境は悪化している。湛水休耕田の配置、田植え1か月前や稲刈り後の湛水等の中継地確保のための対策と効果測定調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○	○		○			○